



こんにちは

村田けい子です

2018.525
No 153

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868



フキの皮むき

ホッとステイ事業に協力。都会っ子 「実のなる木がたくさんあって、田舎っていいな」

昨年から協力しているホッとステイ事業。今年も5月21・22日と協力しました。横浜市の子どもたち1日目は5人、2日目は6人がやってきました。自己紹介のすんだ後さっそく仕事に。我が家では、まず畑をぐるりと見て回り、植物の観察をします。ねぎは見れば判るものの、ピーマンやトマトは苗の姿だとわからない子も。フキは見たことがあるけど食べたことはないとのこと。

我が家には実のなる木がたくさんあります。桃・梅・サクランボ・庭梅・ブドウ・栗そしてブルーベリー。ちょうどサクランボが赤く色づいているので、食べてごらん」というと恐る恐る手を伸ばし、一つ二つ食べてみます。「ハクビシンが来て、赤く色づいた食べごろのサクランボを食べちゃうんだよ。これがハクビシンが登って木の枝を折った跡だよ」と折れた枝を見てもらいます。鹿も狸・キツネも出て作物を食べてしまうことも伝えます。

子どもたちは、まずフキの皮むき。お昼には煮モノにして食べてもらいます。皮むきのコツも伝授します。それから草退治。ネギ畑のスギナを根っこから引き抜く仕事もしてもらいました。どこまでも続く根の長さに、スギナのド根性を感じたようです。手で引っ張っても根は取れません。スコップで掘り進み、それこそ「根こそぎ」引き抜く体験してもらいました。

それから大豆の豆を等間隔に土に穴を空け埋め込む仕事をしてもらいました。途中の休憩時には冷たく冷やした『立科の水』を提供。この水はこの集落を拓いた六川長三郎さんたちの苦労の賜物、と歴史も語ります。2日目の子どもたちは小豆を撒いてもらいました。また2日目の子どもには鎌でフキの収穫体験。一人5本切り取る作業をしてもらいましたが、鎌を持ったことは初めての体験です。



お昼には具だくさんの味噌汁、「手前みそ」を使った豆腐とわかめの味噌汁。「このみそしるおいしい！」と歓声が上がりました。「立科の水がおいしいから」と蓼科山からの水であることを説明。「味噌も手作りよ」とPR。横浜市へは、相模川の下流から取水しているため、消毒の塩素臭がしてあまりおいしくないのです。新鮮な空気と澄んだ水、自前で作った味噌の味、取り立て野菜のおいしさをPR。散歩時にはちょうど田植えの真っ最中。「こうして稲が育ってお米がとれるんだよ」とみてもらえました。水のきれいさ、冷たさにも触れてもらいました。「畑からすぐ取ってサクランボが食べられるなんていいな！私も田舎に住みたい」という声も聴かれました。農業の苦労や喜び、立科の良さを語る機会となりました。

受け入れ家庭大募集中！

10年前から始めたほっとステイ事業。農村の暮らしのすばらしさを知ってもらうとともに、私たちにとっても認識を新たにする機会となります。

一人当たり1500円の協力謝礼金も出ます。貴重な現金収入ともなり、子どもたちから元気パワーをもらえる事業です。

それぞれの家で柏餅づくりやわら細工・苗の植え付け、ヤギの散歩など、工夫を凝らして「農村の日常の暮らし」を体験してもらいます。

そんなに気負わずにできます。皆さんもぜひ、ご参加してはいかがでしょうか。将来立科を思い出して移住してくれるかもしれません。



今年も
にぎや
かに
燕たち

今月のパチリ

役場玄関の屋根裏から、元気なさえずりの声が。見上げるとツバメの巣。黒い頭が動いています。親鳥がしきりと餌を与えているのでしょうか。せわしく尾羽が上下に動いています。

すぐそばの旗竿の上に、もう一羽の親鳥が、警戒に当たっていました。

教職員の1と月の超過勤務時間

平均83時間20分！過労死ラインを超えている！！

県教組2017年勤務実態調査によれば、
超過勤務時間は
小学校 78時間8分
中学校 100時間24分
障害児学校 64時間40分
全体83時間20分

共産党主催の研修会で「教育現場の現状と市町村の課題」と題して高教組より報告がありました。

教職員にゆとりを生み出すために、特に精選・縮小したい事柄として上位に挙がっている項目は小学校・中学校ともに研究事業(教育課程研究・指定研究)で、様々な研究発表のために時間がとられていることが伺えます。

中学校では部活指導が大きな割合を占めています。

<自由記述に寄せられた声>

・次々に教育現場に新たなもの(プログラミング教育、外国語など)が来るが、以前からあるものに積み重なって仕事や係の仕事が増えていくのみ。でも人は増えない。

・中学校では部活動をPM6:30までやっているの、ほっと一息つけばもうPM7:00.そこから仕事をすると、9:00、10:00は当たり前、余裕がまったく在りません。授業が多すぎて、提出ノートもチェックできない日もあります。

・臨採の方が多く、様々な不安を掛けている。学校を支えてくださっている同僚なので、ぜひ、正規教職員を増やしてほしい。(臨採の方には学校運営(校務分掌)を任せられず、その分、正規職員に負担がかかっている、という声も寄せられました。)

<青年部の実態調査より>

教職員としての仕事を定年まで続けることについての自由記述

・このままこの仕事をこのままのスケジュール(毎日12時間勤務を超える)で続けていて、やりがいはあるが自分の生活というものがなくなってしまうのが心配。

・家庭の事と学校のことを両立する自信がありません。今後結婚し、子どもを育てたいと思っているが、難しければやめようと思っている。

・家庭にも仕事をもち帰らないと仕事が終わらず、プライベートな時間が十分取れていない。
・子どものために使える時間が少ない。仕事の為だけに過ごし、体も休まらないまま、子どもと接していることに嫌気がさす。お金がないという理由で学校設備もままならない。子供を育てている場所がこのようでは日本は終わる



地域の話題

地域の魅力再発見！5月26日(土)・27日・28日 「第3回ぶらりSHINDENまち歩き」

西塩沢の住民のみなさんの手仕事・趣味の数々をご覧ください。



「五無齋保科百助生誕150周年記念事業」の番組

5/26(土) 27(日)
6:30~「ぐるっとふるさと信越」で放送されます。

26(土)犬のしつけ教室

コサージュ・コースターづくり
スモークハウス

27(日)壁掛け・わら細工

午後2時から「ショータイム」地元のバンド、太鼓、大正琴の他、中学生4人組がデビュー。みんなで「うたごえ」も楽しみましょう。